

令和8年度 第1回 流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会 議事録

1 日時

令和8年5月26日 火曜日

14時00分から15時30分まで

2 場所

流山市役所 第2庁舎 301・302会議室

3 出席者

(1) 委員

濱田 竜也 会長、香山 雄斗 副会長、雨澤 慎悟 委員、
高村 友紀 委員、楠見 洋子 委員、櫻井 壽一 委員、
平 航人 委員、紺野 好美 委員、横山 章子 委員
(全14名中 9名出席)

(2) 事務局(市)

伊原健康福祉部長

宮澤健康福祉部次長兼介護支援課長

高齢者支援課 時田課長、武林課長補佐、杉岡高齢者介護予防係長、
白井保健師、小山保健師、石田保健師

介護支援課 竹之内課長補佐、木村介護地域支援係長、
西澤主任主事、中西主任主事、長妻主事

(3) 地域包括支援センター

北部地域包括支援センター 石川 渉センター長

北部西地域包括支援センター 高橋 和美センター長

中部地域包括支援センター 土谷 しのぶセンター長

東部地域包括支援センター 崎尾 直子センター長

南部地域包括支援センター 中尾 陽子センター長

4 議題等

(1) 「令和8年度協議会年間計画(案)」及び「令和8年度第三者評価」について

【協議事項】令和8年度協議会年間計画(案)について

(事務局より説明) 資料3のとおり。

(委員) 異議なし

【協議事項】令和8年度第三者評価について

(濱田会長) 評価委員の選出について、濱田会長、前回評価委員にご協力いただいた流山市民生委員児童委員協議会より横山委員、被保険者代表より紺野委員、流山市介護支援専門員連絡会より楠見委員、流山市シルバーサービス事業者連絡会より鈴木委員で実施予定。

(事務局より説明) 資料4のとおり。

- ・事前意見(櫻井委員)「御多忙中、出来得れば老人病・眼・耳・脳・各臓器のケア教育指導等、受療者のみならず対外にも指導や他機関と共援で指導・防御をしていく事等、大いに取り組んでください。」

(事務局より回答) 市・地域包括支援センターでは、介護予防や健康教育に関する講座・啓発活動を実施しており、今後とも高齢者の健康づくりやフレイル予防への取り組みを継続していく。

(委員) 異議なし

(2) 【報告事項】地域包括支援センターの職員の変更について

(事務局より説明) 資料5のとおり。

(委員) 意見なし

(3) 【協議事項】令和7年度流山市地域包括支援センター事業実績・令和8年度事業計画について

(各地域包括支援センター長より説明) 資料6のとおり。

- ・北部地域包括支援センターへの質疑応答

(雨澤委員より) エレベーターのない住宅の2階に住んでいて、自宅から出られない状況の高齢者がいる問題について、有事の際に避難するための避難訓練の実施を検討してほしい。

(北部地域包括支援センター 石川センター長より回答) エレベーターなしの住宅に住んでいる方の多くが高齢者であり、地域の力で車椅子ごと降ろすということが困難だと思っていたが、諦める訳にもいかないなので、一緒に考えていきたい。

(櫻井委員より)北部圏域の老人会が5か所から2か所へ減少し、会員の平均年齢も高齢化している。認知症に関する情報提供の機会を増やす必要があり、実際に介護を行う方との対話の場を設けることは可能か。

(北部地域包括支援センター 石川センター長より回答) 介護者の会にも見本になるような介護をされている方がいるので、話を聞くと参考になると思う。

・北部西地域包括支援センターへの質疑応答

(楠見委員より) 毎月発行される広報誌や地域マップについてケアマネジャーとして有効に利用している。

(紺野委員より) 北部西地域包括支援センターが出来た後もしばらくは北部地域包括支援センターを利用する市民がいたが、現在は自身が北部西地域包括支援センターの管轄だと分かっている市民が増えた。また、北部西圏域には嫁を中心として家族が介護を行わないといけないといった古い慣習の残る地域もある。

(北部西地域包括支援センター 高橋センター長より回答) 北部西圏域に閉鎖的な地域があり、そこへの周知が至っていない状況は認識しているので、1歩ずつではあるが、まずは顔の見える関係性作りを進めていきたい。

・中部地域包括支援センターの質疑応答

(高村委員) ケアマネが支援を開始する時点で、人間らしい生活が出来ていないような劣悪な状況で生活する高齢者を担当することがある。支援が行き届いていない方がいることが課題である。

(中部包括支援センター 土谷センター長) 本人の拒否等でケアマネジャーへ繋がるまでに時間を要するケースもあり、ケアマネジャーが受け持つ際にはより劣悪な状況になる場合もある。早く支援に繋がるように包括周知の継続等を行いたい。そのような劣悪な生活状況の対応についてはケアマネジャーへの負担

も大きいと思うので、包括が伴走していきたい。

(雨澤委員) 支援を拒否し、一見セルフネグレクトのようなケースについて、すべての支援を拒否しているのではなく、貧困などの別の問題を抱えている場合がある。

・ 東部地域包括支援センターの質疑応答

(横山委員) 民生委員としては無くてはならない存在である。その中でも生活お役立ち情報誌は民生委員として活用している。

また、出張相談を今年度は同じ場所で継続することで周知も行き届きやすいと思う。地域の居場所づくりについて研修を実施して頂いたので、民生委員としても地域の人に、参加できる居場所があることを周知したい。

(平委員) 身元保証について、市民に対する啓発活動等を行政が担っていただけると良いのではないか。

・ 南部地域包括支援センターの質疑応答

(香山委員) 薬剤師は、利用者の生活状況等を把握している場合も多いが、外部機関と連携が出来ている薬局は少ない。薬局・薬剤師との連携事例についてケーススタディを行って頂けると、薬局も支援が行き届いていない高齢者への支援が出来る。また、薬剤師会が薬に関する講義をすることも可能なので相互に関わり合えると良いと思う。

(伊原健康福祉部長) 残薬が大量にある場合についても薬剤師会に相談できる。

(雨澤委員) 介護者に対して介護技術の伝達を行うことで、まだ在宅で生活出来そうという声もある。現在無料で行っているが、そのような取り組みについて報酬が出る仕組みがあれば良いと思う。

(5)【協議事項】指定地域密着型サービス事業所の指定更新について(事務局より説明)資料7のとおり。

・ 事前意見(紺野委員)「②多機能ホーム春の苑の宿泊サービス利用について、いつも同じ利用者が長期にわたり利用し、他の利用者が宿泊できないということはありませんか。(ミニ特養化にならないように)」

(事務局より回答) 多機能ホーム春の苑では現在宿泊サービスを利用されている方はいないため、他の利用者が宿泊できないといったことはない。また、利用者の状況で、宿泊が連続したとしても、制度上30日を超える利用はできないため、いつも同じ利用者が長期にわたり利用し、他の利用者が宿泊できないということはない。

(委員) 異議なし

4 その他

次回の運営協議会は、令和8年11月4日(水)午後2時からケアセンター第1研修室・第2研修室で開催予定。